

報 告 書

開催日時	平成 28 年 7 月 25 日（月） 19：00～20：30	
開催場所	三芳公民館	
出席議員	(4 班) 溝口、坂本（盛）、居川、三苫、高倉	
	班 長	溝口
	司 会 者	三苫
	記 録 者	高倉
参加人数	23 名	
主な要望 ・ 提 言 等	○A 氏	
	1. 災害等対応会議設置規程は具体的にどういったものか。	
	震度 5 強以上、大雨洪水暴風等により土砂災害が発生した時など、日田市が災害対策本部を設置する際に、議員が収集した情報を議会としての窓口を一本化し、災害対策本部との情報共有・連携を行うため。初期（災害発生後 24 時間）、中期（災害発生後 1 週間）、後期（災害発生後 1 週間以降）の対応指針を定めている	
	2. 政務活動費がより厳しく見直されているが、よりよい市政に活きる研修等に使うものなのであまり厳しくなくて良いのでは。	
	日田市では他自治体に比べて、より厳しく規定している。年間 24 万円の政務活動費の中で、使用できるもの出来ないものを明確に規定し、市民から疑義や誤解を受けることの無いように努めている。	
	3. 総合戦略 『人を呼び込む地域力の醸成と清流復活』の⑥で日田市の水環境について触れられているが、ダムを放流するとどぶのような異臭がする。日頃からダム湖の水質管理を望む。曝気槽が少なすぎる。	
定期的に水質調査・生物調査を通じての河川環境保全意識の啓発や、上流ワーキング会議（玖珠町・九重町・小国町・南小国町）も行いながら意識向上に取り組んでいる。		
6 月定例議会に水環境ネットワークセンターからの『水郷ひたの清流復活に関する請願（大山川の水量増加による環境改善及び三隈川湛水域の水質改善、並びに高瀬川の清流バイパス設置、これら 3 点を早急に実現することなどを求めるもの』を全会一致で採択した。来年の 3 月は九電女子畑発電所の水利権の更新（見直し）に合わせて水量増加を働きかける。 高瀬川ダム付近に清流バイパスを設置することで、高瀬川の水質改善の効果が期待できる。 三隈川旅館街付近の川底堆積物についても解決策の実施を検討していきたい。		

4. 日田市が災害対策本部を設置し動いている中での、議会が災害等対応会議を設置する意義を感じない。(意見)

5. 清流復活は日田市にとって長年の問題だ。全てのダムに隧道(バイパス)を通すなどしない限りは解決しないと考える。(意見)

○B氏

1. 農業後継者に対して農業相談員を農協に配置したとのことだが、農協職員が行うのか、市の派遣職員が行うのか。

農業指導に特化した人材を新たに配置し専従で行っている。農協職員か市職員かは調査する。

2. 地区担当の保健師増員を議会から市に要望し今回適わなかったというが、今後更に高齢化が進展していく中で現状の体制で対応できるのか。

市によれば、保健師の仕事の内容が専門化(細分化)してきている。一人の保健師で様々なケースに対応するのではなく、それぞれのケースに応じた専門知識を有した保健師の対応が求められてきている。それ故に、保健師を地域包括支援センターを拠点とするとのことだ。議会としては、市内4カ所にある地域支援包括支援センターの保健師増員による充実化を要望していきたい。

3. 町内で行っているミニデイサービスの中で保健師による健康相談が大変好評だ。その回数を増やしていきたい。(意見)

○C氏

1. 市町村合併から11年が経ち周辺部の元気がなくなった。役場が振興局となり地域の人口が更に減少し、商店なども閉店し地域の疲弊が進んでいる。議会として市町村合併をどう総括しているか。

合併の大きな目的は、税収や人口の見通しの中で従来の三千を超える自治体の維持ができないということで国主導で進められてきた。合併後、特にどういった部分の問題が大きくなっているのかを検証しながら議会としても対応していく。また、本日説明を行った地方創生総合戦略の中でも、周辺部の活性化対策は織り込まれている。また、行政に依存せずに住民自ら地域を活性化していく、守っていくという気持ちを持っていただくことも重要と考える。

2. 地方で生まれ育った者が、東京など大都会へ就職し富を生み出している。ふるさと納税制度などもあるが、もっと都会のお金を地方に再配分すべきである。議員がもっと活動するためには、議員定数や議員報酬など減らす必要はない。(意見)

○D氏

1. 近隣都市圏への通勤・通学支援とあるが、通勤にバスを使う場合、バス停（バスセンター）までは車を使用する。毎日駐車料金を払っての通勤は負担が大きい。市として（無料）駐車場を整備する予定はないか。

これまでも検討してきた経緯はあるが難しい。引き続き要望として受け止める。

○E氏

1. 三隈川護岸（堤防）工事が行われた結果、竹田公園側より高瀬側の方が護岸が高く感じるが、実際はどうなっているだろうか。

従来は高瀬側の方が低かったので、高瀬地区として同じ高さになるように要望してきた。今回の護岸（堤防）工事で高さが均一になったと認識している。それが間違いないかを確認する。